



を使用して目標と AWS Managed Services するビジネス成果を達成するための戦略

AWS 規範ガイドンス



AWS 規範ガイド: を使用して目標と AWS Managed Services するビジネス成果を達成するための戦略

Copyright © 2026 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

Amazon の商標およびトレードドレスは Amazon 以外の製品およびサービスに使用することはできません。また、お客様に誤解を与える可能性がある形式で、または Amazon の信用を損なう形式で使用することもできません。Amazon が所有していないその他のすべての商標は Amazon との提携、関連、支援関係の有無にかかわらず、それら該当する所有者の資産です。

Table of Contents

序章	1
ターゲットを絞ったビジネス成果	1
対象者	2
クラウド運用の利点と課題	3
運用上の優秀性の実現	4
セキュリティ	5
コンプライアンス	6
プロアクティブなインシデント管理	6
自動化と自動修復	7
深い AWS 専門知識	7
コスト最適化	7
タイムリーな更新	8
クラウドネイティブ	8
継続的なガバナンス	9
ベンダーロックインなし	9
次のステップとリソース	10
リソース	10
ドキュメント履歴	11
.....	xii

を使用して目標と AWS Managed Services するビジネス成果を達成するための戦略

Natarajan Elayappan と Nitin Verma、Amazon Web Services (AWS)

2025 年 7 月 ([ドキュメント履歴](#))

組織が AWS クラウド インフラストラクチャを構築、運用、管理する場合、ベストプラクティスを実装し、大規模に効率的に運用するという課題に直面する人もいます。このガイドでは、明確に定義された既存の[クラウド運用モデル](#)を採用することで、IT リーダーがクラウドジャーニーを加速できるようにするための戦略の概要について説明します。このモデルは、AWS クラウドにおける運用上の優秀性を実現できるように設計されています。[運用上の優秀性](#)は AWS Well-Architected フレームワークの柱の 1 つであり、チームの整理、ワークロードの設計、大規模な運用、時間の経過とともに進化するためのベストプラクティスを実装することで実現できます。

AWS は、[AWS Managed Services \(AMS\)](#) と呼ばれるエンタープライズサービスを提供します。これにより、既存の Cloud Center of Excellence (CCoE) またはより広範なクラウド運用チームを拡張することで、運用上の優秀性を実現できます。AMS とチームは協力して、堅牢な AWS クラウド 運用プラクティスを確立します。AMS の事前定義済みで成熟したクラウド運用モデルを採用することで、より優れたビジネス成果を迅速に達成できます。

ターゲットを絞ったビジネス成果

この戦略は、お客様や組織が以下のことを行うのに役立ちます。

- AMS が AWS 大規模な導入にどのように役立つかについて説明します。
- クラウド運用チームが日常的な管理アクティビティではなく、イノベーションに注力できるように支援します。
- AMS のクラウド運用モデルを採用して、運用オーバーヘッドとリスクを低減します。
- コンプライアンス要件を満たすのに AMS がどのように役立つかについて説明します。
- AMS の自動化優先のアプローチを使用して、人為的ミスとコストを削減し、一貫性、正確性、および速度を向上させます。

対象者

これは、クラウド運用チームをサポートおよび拡張し、クラウドにおける運用上の優秀性を達成するのに AWS Managed Services がどのように役立つかを、経営幹部や IT 運用マネージャーが理解できるようにすることを目的としています。

クラウド運用の利点と課題を理解する

組織は、自社のビジネスが提供する付加価値サービスに注力し、エンドカスタマーのニーズに対応したいと考えています。多くの組織にとって、これはアプリケーションの機能を継続的に改善し、市場投入までの時間を短縮することを意味します。これらのビジネス成果を達成するために、組織は、クラウドの利点 (俊敏性、信頼性、スケーラビリティなど) を活用できます。継続的インテグレーションと継続的デリバリー (CI/CD)、および開発オペレーション (DevOps) のプラクティスに従うことで、アプリケーション機能のリリースを最適化できます。また、アプリケーションのモダナイゼーションにより、クラウドネイティブサービスを効果的に使用することもできます。

しかし、スタッフがモニタリング、インシデントや問題の管理、パッチ適用、バックアップ、セキュリティ管理などの日常的なクラウド運用に専念していると、これらのプラクティスや最適化を実装することが困難な場合があります。これらのタスクによって、付加価値のあるアクティビティに注力するために使用可能な時間が制限される可能性があります。最終的には、これがスタッフの離職、運用コストの増大、IT 運用に対する組織内での信頼の低下、顧客満足度の低下につながる可能性があります。以下は、クラウド環境で組織が直面する主な運用上の課題の一部を示しています。

- セキュリティ、コンプライアンス、信頼性の達成
- 差別化されないタスクの優先、またはそれらのタスクへの注力
- 運用コストの削減と最適化
- クラウド人材の発見と維持
- 運用上のベストプラクティスの継続的な実装

AWS Managed Services (AMS) は、組織がこれらの課題を克服し、でオペレーショナルエクセレンスを達成するのに役立つように設計されています AWS クラウド。

AWS Managed Services を使用して運用上の優秀性を実現する

AWS Managed Services (AMS) は、AWS インフラストラクチャのオペレーションを管理するのに役立ちます。シングルアカウントまたはマルチアカウントのランディングゾーンから始める場合でも、AMS は大規模 AWS に導入し、効率的かつ安全に運用するのに役立ちます。AMS における事前対応、予防、および検出の機能は、俊敏性を制約することなくリスクを軽減し、信頼性を向上させるように設計されています。これにより、組織が新機能やバグ修正などのイノベーションを優先することが可能になります。AMS の運用機能には、24 時間 365 日の事前対応型のモニタリングと修復、インシデントの検出と管理、セキュリティ管理、パッチ適用、バックアップ、およびコスト最適化が含まれます。AMS は、運用上のベストプラクティスの実装を支援し、専門的な自動化、スキル、および経験を提供します。詳細については、[AWS Managed Services のフィーチャー](#)を参照してください。

AMS は拡張された運用パートナーとして機能します。また、クラウドインフラストラクチャおよびセキュリティ運用を効果的に管理するのに役立ちます。これにより、IT 運用チームが運用タスクの実行に費やす時間を削減できます。これにより、チームはアプリケーションに関するより高レベルのアクティビティに集中できるようになり、その結果、開発プロセスを迅速化して新機能を顧客に提供できるようになります。以下の AMS 機能は、社内のクラウド運用チームの負荷を軽減することで、クラウド導入を加速させるのに役立ちます。

- [セキュリティ](#)
- [コンプライアンス](#)
- [プロアクティブなインシデント管理](#)
- [自動化と自動修復](#)
- [深い AWS 専門知識](#)
- [コスト最適化](#)
- [タイムリーな更新](#)
- [クラウドネイティブ](#)
- [継続的なガバナンス](#)
- [ベンダーロックインなし](#)

セキュリティ

セキュリティはすべての企業にとって重要であり、AWS Well-Architected フレームワークの重要な柱です。のセキュリティのベストプラクティス AWS は、クラウド内の組織のデータ、システム、アセットを保護するように設計されています。ログ記録、モニタリング、ID とアクセス管理、および暗号化は、クラウドリソースの保護に支援するために導入できるセキュリティコントロールの例です。セキュリティコントロールは、脅威アクターがセキュリティ脆弱性を悪用するのを防止、検出、または低減するための技術的または管理的なガードレールです。

AMS は、AWS ベストプラクティス とを使用してクラウド運用リスクを軽減するのに役立ちます AWS のサービス。規範的、予防的、検出的、および対応的なセキュリティコントロールが組み込まれています。AMS は、や [Amazon GuardDuty](#) AWS のサービス など、を介して 200 を超える マネージドガードレールとセキュリティチェックをデプロイ [AWS Config](#) およびモニタリングします。AMS は、検出結果や非準拠のリソースを自動的に修復することもできます。AMS の対応プロセスは、米国国立標準技術研究所 (NIST) のサイバーセキュリティフレームワーク (CSF) 標準に準拠しています。

例えば、GuardDuty は、AWS 環境向けの継続的なセキュリティモニタリングサービスです。これは、機械学習および脅威インテリジェンスフィード (悪意のある IP アドレスやドメインのリストなど) を使用して、不正の可能性のある動作や異常な動作を識別します。AMS をサブスクライブすると、GuardDuty が有効化され、アカウントに侵害の兆候 (例えば、異常なアクセス動作、不正なインフラストラクチャデプロイメント、異常な API コールなど) がないかをモニタリングします。例えば、アカウント内のユーザーがパスワードポリシーのパスワード強度要件を低減する API コールを発行すると、GuardDuty によって検出されます。

AMS は、GuardDuty の検出結果を 24 時間 365 日モニタリングします。AMS はセキュリティ専門家とともに検出結果を調査し、お客様と連携して問題の修正または封じ込めを行います。詳細については、このガイドの「[プロアクティブなインシデント管理](#)」を参照してください。

さらに、AMS は [Trusted Remediator](#) などの高度なツールを提供します。このツールは、AWS Trusted Advisor のチェックで検出されたセキュリティ上の問題の修復を自動化します。Trusted Remediator は、のセキュリティギャップを埋める機会が Trusted Advisor チェックで示された場合にレコメンデーションを作成します AWS アカウント。Trusted Remediator を使用すると、確立されたベストプラクティスに基づく安全かつ標準化された方法で、セキュリティの推奨事項に対応できます。

AMS が のインフラストラクチャとデータを保護する方法の詳細については AWS クラウド、AMS ドキュメントの「[セキュリティ管理](#)」を参照してください。

コンプライアンス

AMS を使用すると、コンプライアンス要件を迅速に満たすことができます。AMS は、次のような多くの業界標準に準拠しています。

- Center for Internet Security (CIS)
- Payment Card Industry Data Security Standard (PCI DSS)
- Health Insurance Portability and Accountability Act (HIPAA)
- Health Information Trust Alliance 共通セキュリティフレームワーク (HITRUST CSF)
- 影響度が「中」および「高」の FedRAMP ワークロード

同様のコントロールを必要とする多くのコンプライアンスフレームワークおよびその他の業界フレームワークに向けた取り組みを加速できます。例えば、AMS は PCI DSS に準拠しているため、セキュリティ、ログ記録、および監査のためのデフォルトインフラストラクチャは、組織が PCI DSS コンプライアンスをより迅速に達成するのに役立ちます。

業界標準およびフレームワークを満たすために、AMS は AWS Config ルールのライブラリを維持し、お客様のアカウントにデプロイします。これらのルールは、がセキュリティと運用の整合性に関する標準 AWS アカウント に準拠しているかどうかを評価します。は、リソースの設定変更 AWS Config を継続的に追跡します。変更がいずれかのルールの条件に違反している場合、AMS はその検出結果を報告します。違反の重大度に応じて、AMS が自動的に違反を修正するように設定できます。AMS が AWS Config を使用してアカウントを保護する方法の詳細については、AMS ドキュメントの [「設定コンプライアンス」](#) を参照してください。

プロアクティブなインシデント管理

24 時間 365 日のモニタリングにより、AMS は重大なインシデントをプロアクティブに検出し、通知できます。継続的なサービスを提供するために、異なるタイムゾーンにある 7 つ以上の地理的拠点間で問題を処理および引き継ぐ follow-the-sun モデルを使用します。これらのインシデントの多くは、タイムリーに対処されない場合、重要なビジネス機能のダウンタイムにつながる可能性があります。また、AMS は、根本原因の特定と調査を支援するために、繰り返し発生するインシデントに対する傾向分析も実行します。AMS インシデント管理モデルは、結果がすでに特定され、AWS 専門家によってレビューされているため、組織の平均応答時間と平均解決時間 (MTTR) を大幅に短縮できます。

自動化と自動修復

AMS は、自動化と標準化を通じてスケールします。自動化と自動修復は、手作業によるエラーを削減し、効率性を高め、アプリケーションの信頼性を向上させます。AMS は、一貫性、速度、正確性、および高品質な成果を実現するために、運用に対して自動化優先のアプローチを採用しています。これらの自動化には、一元化されたパッチ適用、モニタリング、アラートの発行、バックアップ、復元、または問題の修復が含まれます。自動修復の詳細については、「[AMS automatic remediation of alerts](#)」を参照してください。継続的な改善メカニズムを通じて、AMS は複雑な問題の解決を支援し、企業の規模やセグメントに関係なく、すべての AMS サブスクライバーに対してグローバルに継続的な運用効率を提供します。修復アクションを自動化することで、スタッフの関与の必要性が低減されます。これにより、コストが削減され、一貫性と信頼性が向上します。例えば、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンスが定義済みのしきい値 (ストレージ容量の 95% など) に近づいている場合、AMS は、自動的に既知のログを圧縮するか、基盤となるディスクおよびファイルシステムを拡張することで、ダウンタイムを回避します。また、AMS 運用チームは、将来的に同様の問題が発生するのを回避できるように、お客様と連携して根本原因を特定します。

深い AWS 専門知識

AMS の運用チームおよびデリバリーチームは、AWS のサービスの運用に関する深い専門知識を持っており、お客様のクラウド運用およびガバナンス能力の拡張とスキルアップを支援します。AMS の運用機能と経験を使用することで、組織が必要とするクラウド運用リソースの数を最小限に抑え、リソースを追加することなくビジネスをスケールできます。AMS は、サービスクレジットに基づく、インシデント対応および復元に関するサービスレベルアグリーメント (SLA) を提供します。AMS はより広範な AWS サポート カバレッジの一部であるため、AMS は複雑な技術的問題を解決できる AWS のサービス エキスパートに直接アクセスでき、MTTR を大幅に削減することもできます。

コスト最適化

AMS Cloud Service Delivery Manager (CSDMs) は、AWS リソースとクラウドオペレーションの最適化に役立つ定期的なレコメンデーションを行います。やなど、さまざまなコスト最適化ツール AWS Trusted Advisor AWS Compute Optimizerやサービスを使用します AWS Well-Architected Tool。AMS は、[Operations on Demand](#) 機能を使用して、必要な変更を大規模に実装できます。AMS を使用すると、通常は年間の運用コストを大幅に削減でき、それによって AMS 自体のコストを大幅に相殺できます。

AMS は AWS インフラストラクチャを管理するための実践的なキーボードサービスを提供するため、AMS は実際に、使用率の低いインスタンスのインスタンスタイプを変更するなど、コスト最適化の変更を実行できます。AMS には、AMS Resource Scheduler などの高度なコスト効率化機能が備わっており、短期および長期の削減目標を達成するために使用できる 20 以上の標準的な削減パターンが用意されています。詳細については、AMS ドキュメントの「[Cost optimization with AMS Resource Scheduler](#)」を参照してください。

さらに、AMS は、[信頼された修復などの](#)高度なツールを提供し、AWS Trusted Advisor チェックからのコスト最適化の検出結果の修復を自動化します。Trusted Remediator は、Trusted Advisor チェックがコスト漏れを修正する機会を特定した場合に、推奨事項を作成します。これにより、全体的な総保有コスト (TCO) が削減されます。Trusted Remediator を使用すると、確立されたベストプラクティスに基づく安全かつ標準化された方法で、セキュリティの推奨事項に対応できます。

タイムリーな更新

パッチオーケストレーションを通じて、AMS はすべての AWS アカウント および にわたって自動化されたオペレーティングシステム (OS) パッチ適用 AWS リージョン を提供し、インフラストラクチャ up-to-date 保ちます。これにより、オペレーティングシステムベンダーからの重要なセキュリティパッチがタイムリーに更新されるため、セキュリティの脆弱性が低減され、インフラストラクチャを保護できます。パッチ適用に失敗した場合、AMS はその修復を試みます。また、スムーズな運用を維持するために必要な場合は、パッチ適用前のバックアップからインスタンスを復元します。また、ゼロデイエクスプロイトに対処するために、AMS のオンデマンドパッチ適用を活用することもできます。詳細については、AMS ドキュメントの「[Patch management](#)」を参照してください。

クラウドネイティブ

AMS は、すべての自動化とツール AWS のサービス にクラウドネイティブを使用して、AWS インフラストラクチャを効率的かつ費用対効果の高い方法でモニタリングおよび管理します。たとえば、パッチ自動化を実行するために、AMS は AWS Systems Manager AWS Lambda と Amazon Simple Notification Service (Amazon SNS) の組み合わせを使用します。AMS のサブスクリプションを解除し、クラウド運用チームがインフラストラクチャおよびセキュリティ管理を引き継ぐ場合でも、チームはサードパーティ製品を学習するためにスキルアップする必要はありません。AMS が で実行するすべての変更とオペレーションを表示できます AWS アカウント。

AMS がクラウドネイティブを使用して運用上の優秀性 AWS のサービス を実現する方法の詳細については、「[AMS リファレンスアーキテクチャ図](#)」を参照してください。

継続的なガバナンス

AMS は、セキュリティ、パフォーマンス、信頼性、コスト、および全体的な運用上の優秀性に関する継続的なガバナンスを提供することで、Cloud Center of Excellence (CCoE) チームを補強します。セルフサービスレポートに加えて、クラウドサービスデリバリーマネージャー (CSDM) およびクラウドアーキテクト (CA) という専任の担当者が割り当てられます。これらの担当者は、継続的なガイダンスを提供する拡張チームメンバーとしての役割を果たします。また、ビジネスレビューを通じて、[AWS Cost Explorer](#)、[AWS Cost and Usage Report](#)、および [AWS Trusted Advisor](#) などのツールを使用して、主要な運用リスクとメトリクスに関する深いインサイトを提供します。これらの担当者は、お客様と連携して、潜在的な改善点を特定および実装します。AMS は、CCoE チームから差別化されないタスクを引き取ってチームの負担を軽減します。その結果、CCoE チームは日常的なガバナンス活動ではなく、アプリケーション設計やモダナイゼーションの改善に集中できる、より効率的なチームになります。

ベンダーロックインなし

他の多くのサービスプロバイダーとは異なり、AMS は、他のほとんどの AWS のサービスと同様に、月単位の従量課金モデルを採用しています。クラウド運用チームは、AMS の自動化およびガバナンスから学ぶことができます。時間の経過とともに、AMS での経験を通じてスキルアップすることで、チームは自社の IT 運用プラクティスを改善することができ、最終的にインフラストラクチャおよびセキュリティの管理と運用を引き継ぐことができます。AMS はクラウドネイティブのみを使用するため AWS のサービス、AMS にサブスクライブしても、サードパーティーの契約やライセンスへのコミットメントは必要ありません。

次のステップとリソース

AWS Managed Services (AMS) を使用して、差別化はされないが重要なクラウドインフラストラクチャとセキュリティの運用アクティビティを実行します。これにより、組織は、アプリケーションの移行とモダナイゼーション、DevOps、アプリケーションの配信、デプロイの自動化など、顧客により良いサービスを提供するための付加価値のあるタスクに注力できます。AMS を使用することで、クラウド運用チームは、日常的な運用タスクに時間を費やすのではなく、CI/CD や人工知能と機械学習 (AI/ML) などの需要の高いテクノロジースキルの学習と使用に注力できます。

IT リーダーは、AMS を活用することで、初日からクラウドにおける運用上の優秀性を達成できます。それと同時に、クラウド運用の総保有コスト (TCO) を削減し、アプリケーションのセキュリティと信頼性を向上させ、市場投入までの時間を短縮できます。AMS は、組織がコアビジネスと競争に注力し、変化するビジネスニーズに迅速に対応し、望ましいビジネス目標および目的を適時に達成できるように支援します。AMS は、AWS Well-Architected フレームワークで定義されている運用モデルによく適合します。これにより、従来の 完全に分離された運用モデル から、一元化されたガバナンスとサービスプロバイダー を備えた戦略的なモデルに迅速に移行できます。

AMS の使用を開始するには、AWS の担当者に連絡するか、[AMS の営業部門](#) に直接お問い合わせください。さらに、AMS に関する追加情報を提供する以下のリソースを参照することをお勧めします。

リソース

AWS ドキュメント

- [AWS Managed Services Accelerate のドキュメント](#)
- [リファレンスアーキテクチャの図](#)

AWS マーケティングリソース

- [AWS Managed Services](#)
- [AWS Managed Services リソース](#)
- [AWS Managed Services Accelerate の運用計画](#)
- [AWS Managed Services Customers](#)

ドキュメント履歴

以下の表は、本ガイドの重要な変更点について説明したものです。今後の更新に関する通知を受け取る場合は、[RSS フィード](#) をサブスクライブできます。

変更	説明	日付
Trusted Remediator	「 AWS Managed Services を使用して運用上の優秀性を実現する 」セクションを更新し、Trusted Remediator に関する情報を追加しました。	2025 年 7 月 29 日
初版発行	—	2023 年 5 月 23 日

翻訳は機械翻訳により提供されています。提供された翻訳内容と英語版の間で齟齬、不一致または矛盾がある場合、英語版が優先します。